難易度について

eqhor music labo Tokyo では、課題の難易度を 10 段階（★の数）に設定しています。

難易度表

初級　　中級　　上級

★★★★★★★★★★

応用課題 ⇨

初学者レヴェル ⇨　　入試レヴェル ⇨

難関大学入試レヴェル ⇨

★１～３…初級レヴェル　★４～７…中級レヴェル　★８～１０…上級レヴェル

各難易度について

★の数は厳密なものではなく、およその目安としての分類です。

聴音の難易度は、調号や臨時記号の数、リズムや音価の複雑さ、旋律の動静によって変動します。入試などの試験の場面で、記号の数や音域などの範囲を設定している場合もありますが、必ずしも明確に基準を持たないことも少なくありません。

私たちは、**①各課題作成者の作問の意図** をもとに、**②実際に複数人のスタッフで課題を実施** した上での経験、体感的な印象を踏まえ、総合的な観点から各難易度レヴェルに分類いたしました。

★の数２、３までは、ソルフェージュ初心者が学習を開始して１～２年で到達することが望ましいレヴェルになっています。

中級にあたる★の数４～７のレヴェルは、実施に慣れてきた学習者が、より基礎力を高めることを目的とした内容になっています。各音楽大学、音楽高校の入試のレヴェルにも対応できるよう、音楽理解のための要点を多く盛り込んだ課題になっています。

様々なスタイルの応用課題は、中級以上の学習者が実施することを想定しています。

各応用課題は、３声以上の複旋律聴音課題やピアノ以外の楽器による聴音など、基礎的なソルフェージュ能力にプラスして身に付けていきたい音楽的聴感覚の向上に刺激をもたらす内容になっています。

★の数７つ以上の上級課題は、より高度な応用力の習得を目的としています。専門性の高い複雑な非和声音や、非常に細かいリズムなどが盛り込まれています。一般的にピアノや作曲、指揮などの専攻に課される聴音は高度です。上級の課題ではそのような高度な試験問題や、難関音楽大学や、音楽大学大学院などの入試に耐え得るソルフェージュ力の育成を目的としています。

©eqhor music labo Tokyo